

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 (財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

第五福竜丸との出会い

枝村 三郎

今年四月下旬に私は第五福竜丸展示館を、県内の高校教師の仲間と見学する機会をえた。当日館員の特別の好意で、木造の福竜丸の船上や船体内部をくまなく見学出来て大変感激した。私の長年の念願がかなえられた思いである。

私たちは、一九七八年平和教育読本『三・一ビキニと第五福竜丸』(静岡県高教組)を発行したが、今回全面改定してブックレット『第五福竜丸物語』(かもがわ出版)を七月に発刊するたために福竜丸の調査を行った。

第五福竜丸事件が起きた一九五四年は、私が富士高校に入学した時であった。私は高校生として、事件以後毎日ラジオ放送される水爆被災の状況、福竜丸乗組員の病状や久保山愛吉さんのことなど心を痛めていた。

一九五九年私は静岡大学教育学部に入學して、自治会役員となりその後安保闘争に参加した。この年街頭で市民から寄せられたカンパで、広島第五回原水爆禁止世界大会に参加した。こ

の時の世界中に広がる原水爆禁止運動の熱い思いから、以後焼津市の三・一ビキニデーには参加するようになった。一九六九年暮れに私たち三〇歳前後の社会科学の教師が中心となり、静岡県歴史教育者協議会を組織した。会は「地域にねざした歴史教育」をめざして、地域の歴史の掘り起こしの活動をはじめた。

私たちは静岡県が第三の被災県でありながら、広島・長崎のように県民ぐるみの平和教育が進まない状況をなんとか切り開こうと考えた。私たちが最初に取り組んだのが、第五福竜丸事件の掘り起こしだった。その教育実践の成果が、一九七七年の飯塚利弘著『私たちの平和教育、第五福竜丸と三・一ビキニを教える』(民衆社)であった。

一九七四年私は前任校の島田高校で学校から平和教育をと考え、美術の教師で版画家である青木鉄夫さんと組み、版画読本『第五福竜丸』を自費出版した。学校の文化祭では第五福竜丸版画展を開き、当時駿府会館で開かれた

三・一ビキニデーでも、会場入り口で版画の展示場を設置した。私は第五福竜丸事件の掘り起こし活動から、何回か久保山さんから聞き取り調査をした。その後一九八〇年から一九八四年まで同人誌『独立文庫』に、「焼けた港」の題名で福竜丸事件をテーマにした小説を六回連載で書いた。昨年九月原水爆廃絶を訴え続けた皆さんが亡くなったことは、とても残念でならない。

今年、ビキニ水爆被災事件から四〇周年目にあたる。一九九一年一〇月に外務省は、第五福竜丸被災事件、放射能被害漁船の問題、被災の損害補償に関する処理問題等の水爆被災事件に関して、約三千ページの「極秘・秘密・暗号」とされた外交文書の内容を明らかにした。

福竜丸展示館の見学の際に、外務省外交文書から第五福竜丸平和協会が、独自に編集した「福竜丸関係資料」のコピーをいただいた。

私は外交文書を全面的に公表する必要があると考え、一〇月に発刊する静岡県近代史研究会の研究誌「静岡県近代史研究」二〇号に、「ビキニ水爆被災と第五福竜丸事件」の論文を書き、焼津港を中心に新たな被災の実態を明らかにした。(静岡県榛原高校教員)

専念しなければいけない。大人の世界ですから、個人主張もありトラブルがあると機関長の山本さんに相談をもちかけたりしてしましたね。

三好先生もずうっと研究室に泊まりこんでやっていらっしやいました。十一時、十二時位地下室に降りていくと、先生の電気がついてるでしょ。おむすびを作ってたっていったりしましたよ。翌日、昨日はどうもありがとって言うてくださったね。結局検査をしてもらって残務整理があるわけですよ。顕微鏡のぞいたり、本を読んだり、書いたり。昔は先生が全部やりました。だから先生方は夜通しです。今じゃ考えられません。三好先生の所には、しょっちゅう外国から文献が届いていましたが、今と違って複写機なんてなく、たいへんでした。

久保山さんが重態に陥った時、最後のお別れをしていたほうがいいだろうと、九月のはじめ、夜もだいたい遅くなってから、毛布をかぶって隠れるように車に乗って、三好先生、見崎さん、鈴木さん、高木さんと東一に行っただけです。東一の玄関はもうマスコミでいっぱい、フラッシュがすごくて、毛布をかぶったまま裏口に向かいま

した。裏口にごみ焼き場があり、ごみ焼き場の高台の上をはい上がり病院に入ったんです。久保山さんは意識不明でした。乗組員の方は励ましの言葉をかけ、手をにぎりにしていらっしやいました。これがお別れでした。

九月二十三日に亡くなられた時は、部屋の中誰一人語らずでした。恐ろしい位でした。次は俺の番じゃないかと、ひしひしとみなさん感じられたんじゃないでしょうか。乗組員の方は検査が多く、かわいそうなくらいでした。骨髄検査、注射、スライドもとられるしね。外科の先生は定期的に潰瘍の写真撮り続けていました。

翌年の五月、退院されましたが完全に治るっていうあてもないまま退院され大丈夫かな、独身の方はお子さん生まれるのかなって心配しました。普通の患者さんが退院するのは違いました。乗組員の方も喜ぶというのではなかったです。まだわからないことだらけでしょ。不安があったと思います。

私はその後結婚のため、一九五七年に東大を退職しました。八〇年に主人を亡くし、先輩たちが心配してくれまして、鶴見市立大学の保健室を幹旋してくれたものですから、そこで五年位働きました。

現在は東京西多摩の日の出ヶ丘病院に勤務しています。

ほんとにいい仕事をさせてもらったと思っっています。一生の。みなさんおびえていましたよ。それをなんとかとって去ってあげなきゃな。ですから寮にも帰らないで夜も泊まって、先生方も一生懸命でしたから。今になって、その時の光景を思いだしながら生活でき、看護婦であってよかったなと思います。八年前ガンになりましたけど、一日一日感謝しながら生きています。

なんとかみなさんにその後お会いしたいなって気持ちがずっとあったんです。お会いして懐かしく思いたかったんですけど、故人になられた方が多く。見崎さんに代わってお会いして、見崎さんだけでもお会いできて、うれしく思いました。(談)



カ所村へ銀輪を運ね出た。見学の高校生もアメリカの青年も久保山記念碑前で恒例の被爆者を囲む集いを開きました。

猛暑の中、館の内外で記録的な猛暑の夏、展示館は連日高校生の来館で熱気いっぱいですが、アメリカの高校生も熱心に見学しました。日米文化センターの招きで来日したワシントン・シドウェル・フレンズ・ハイスクールの十名で、通訳・ホームステイの日本の大学生と共に「核についての討論会」を持ち、核兵器は廃絶できるかなど意見交換。折鶴を送り広島へと向かいました。

船腹下の読書コーナーはまた絶好の小教室、今年も横浜フリースクールの夏期講座があり、横浜、三崎の生協のお母さんも交じって、小川岩雄理事の核問題の講義に耳を傾けました。

展示館前でも七月末、ピースサイクル94の青年たちが自転車による反核全国キャンペーンの出発の集いを持ち広島・長崎・青森県六

反核平和の火リレーと第五福竜丸

野 本 雄 一

「私達はベトナム戦争のことも知らない」——先輩方からあまり活発でない青年の平和運動の現状を聞かれた時、私はこのことを言うようにしている。こう言うと、平和運動での先輩方は少し驚いた顔をされる。そして、そのすぐ後に「それはそうね」と言われる。

私達は戦争の現実を知らないし、反戦闘争というものも知らない世代である。第二次世界大戦はもちろん、ベトナム戦争も知らない。そしてベトナム反戦に代表されるような大規模な反戦闘争というものも知らない。そして多くの青年は第五福竜丸の存在すら知らないか、知ってはいても気にも留めないままである。

六年前、こうした状況を変えて私達は反核平和の火リレーをはじめた。反核平和の火リレーとは、広島島の平和公園に灯る平和の火をトーチに灯し、平和を訴えながら青年の手から手へ走り継ぎ、戦争・被爆体験を語り継ぐという運動である。今年で六回を数えたこの

運動は、米軍横田基地と第五福竜丸展示館を結び、毎年初夏の時期に行っている。今年は三五〇kmを一〇〇〇名のランナーで走り継いだ。通過自治体は都内二三区二〇市三町に及ぶ。実はこの運動は一九八二年に広島島の青年達によってはじめられた運動であるのだが、今では四〇に及ぶ都道府県で五万人のランナーが一万五千kmを走り継ぐまでになっている。

東京で反核平和の火リレーをはじめるとに当たっては、米軍横田基地と第五福竜丸展示館を結んで走ることとした。首都に外国軍の基地があるという世界に例のない現実と、第五福竜丸の体験した核兵器の恐ろしさを伝えるためにである。

リレーをはじめた当初、第五福竜丸を見た少くない仲間からの第一声は「へー、こんなのあったの」であった。東京に住み働く青年の中で、どれだけのもがこの第五福竜丸のアピールを感じているだろうか。改めて痛感した。ラ

ンナーとして走っていても、第五福竜丸について何も知らないで走る仲間も少なくなかった。

こうしたことから、第五福竜丸の発するアピールを知ってもらうために、展示館への見学を呼びかけた。特に今年は被災四〇周年に当たることから、平和協会のご協力も得ながら、「マンガ第五福竜丸」をリレーのランナーに配布したり、小さいながらも映画「第五福竜丸」の上映会も行った。ビジュアル化された情報に慣れてしまっている私達の世代にとっては、文章のパンフレットよりもこうしたもののほうが伝わりやすい。

こうした中で、少しずつ私達のまわりでも第五福竜丸のメッセージは広がっている。リレーに参加しているたばこ産業の労働組合のある執行委員は、この展示館の存在を知って、青年部として第五福竜丸の見学ツアーを取り組んだ。一時間にわたる説明を受け、参加者全員が極めて率直に驚き、悲しみ、核兵器の恐ろしさを感じ取ることができたという。この見学ツアーに参加した仲間は職場に戻り報告し、その結果として、青年部として年に一回、展示館へ

のキャンパを取り組む事を決めている。第五福竜丸を目の前にして受けた衝撃を忘れない、平和への彼らなりの決意の現れなのであろう。

またその他にも、リレーで第五福竜丸を知った仲間達は、家族で、友達同士で、機会あるたびに、展示館を訪れていると聞いている。こうしたことを聞くにつれ、第五福竜丸が保存されているというそのことにこそ、大きな意義があるのだと思う。

はじめに述べたように、私達は反戦闘争と言われてもあまりピンと来ない世代である。だから平和を守らなければと思いつても何をしたら良いのかわからないのが多くの青年の率直なところだと思ふ。しかし何もしないよりは何かしたほうが良いに決まっている。だから私達は平和の火をもって走っている。あるランナーはこう言っている。「平和の火をもって走ったことを思い出すたびに、核問題、平和についても自分の問題として振り返り、そして考え続けることができると思う」。私達はこうした青年が一人でも増えるように、第五福竜丸と共に頑張りたいと思ふ。(日本青年学生平和友好祭東京実行委員会副実行委員長)

ビキニ事件にかかわった三人の女性の証言——第三回(最終回)

なんとか乗組員のみなさんにお会いしたいと思ひ続けていました
(元東大病院看護婦) 原科富喜代さん
(旧姓吉原)

昨年の五月、焼津に行き退院以来初めて見崎吉男さんにお会いしました。お元氣そうだということが第一印象で、よかったですと感じました。焼津には増田(三太郎)さんもいらっしやると思ひ連絡しましたら、亡くなられたとのことでした。奥様は入院中付き添い看護婦をされていた方だったので、是非お悔やみをしてお墓まいりをさせていただきたいと伺ったのですが、ちょうど都合が悪くお家

だけ拝見させていただきました。機関長の山本さんもなくなられたという事を知り、ご家族にお悔やみをと電話したら、結婚されたのがやはり当時付き添い看護婦をされていた方とわかり驚きました。大分の高木さんが亡くなられたことも初めて聞きました。

第五福竜丸の乗組員の方が東大病院に入院されたのは、三月二十八日でした。東大に七人、国立東京第一病院に十六人入院しました。

当時東大は美甘先生が院長でしたから、美甘先生が総指揮を取り、その下にそれぞれ専門の分野の先生たちが集まり総合的にやっていたんです。外科的なことは清水先生が担当で、放射線科は入江先生が指揮をとって、その下にまたスタッフがいて検査したり。主治医の三好和夫先生は沖中内科で、血液のご専門でした。私

と私の先輩の二人が選ばれましたが、人手が足りなくその他に、看護婦の免許を持った四人、そして患者一人に対して付き添いの方を一人づつ付けるという事で発足したんです。

当時、私は沖中内科の所属でした。実家が九州の大牟田で、以前は九州大学付属病院にいましたが、一九五一年、転勤で東大に来ました。ですから、まだ新米の方だったんです。

美甘内科は三階でしたので、三階のはしっこを全部使って特別内科というのを作りました。一般の患者さんだけでなく、ドクターも看護婦も担当以外、出入り禁止にしました。私は病室の一人部屋を寝室にして、寮には帰らず、退院されるまでずっと泊まりこんでやっていました。



東大病院の病室。後方中央が原科富喜代さん。



原科富喜代さん(西多摩・日の出ヶ丘病院)

いまも現役の原科富喜代さん(西多摩・日の出ヶ丘病院)長でしたから、美甘先生が総指揮を取り、その下にそれぞれ専門の分野の先生たちが集まり総合的にやっていたんです。外科的なことは清水先生が担当で、放射線科は入江先生が指揮をとって、その下にまたスタッフがいて検査したり。主治医の三好和夫先生は沖中内科で、血液のご専門でした。私看護婦は救護班として私

乗組員の方は安静が一番大事でしたけど、面会人が来ると状態のいい人は代表者に会ってもらいました。取材は婦人団体から子供の団体まで、それは多かったです。お見舞いの手紙や千羽鶴とか。外国の方もいらっしやいました。見崎さんは少々具合が悪くて

今日は見崎さんやめたほうがいいなっていう時も、誰もやらないから、俺がしゃべるとよって、それこそふるいたたせてやっていたらいいました。見崎さんは黄ダンがひどく、高熱を出すことが多かったです。それでも苦しむということをおっしゃらなかつたです。誠実で、いわゆるまま「そうでありませうか」っていう口調でした。みなさんの動揺をおの方がまとめて押さえて、先生にお任せして治療に